



A to Z

面白くてためになる A から Z までの **院内情報誌**

復刊 第 3 号

発行 2013 年（平成 25 年）7 月

編集者 医療法人社団尾崎病院 編集委員会

夏場の健康管理

今夏は猛暑日、真夏日が多く、一段と健康管理に気をつけましょう。



熱中症 定義は「暑熱環境における身体適応の障害によって起こる状態の総称」です。「中」には「あたる」という意味がありますから、熱にあたって起こった状態と解釈できます。

熱中症は屋内でも起こります。仕事中、大量の汗をかく人や高温多湿で風がない環境で働く人は注意が必要です。

初期には「暑い」という感覚や「汗が出る」といった所見が認められる程度ですが、これらの所見に「頭がぼーとする」「眠い」「だるい」「力が入らない」「ふらふらする」などの自覚症状を生じたり、あるいは同僚が「いつもの動作と違う」「ふらついている」「受け答えがおかしい」「目がうつろ」などに気がついた時には熱中症を疑って、直ちに受診しましょう。

重症型熱中症は 30%以上の死亡率といわれ、予防と早期診断、早期治療がきわめて重要な疾病です。今夏も若い人の死亡例が報告されています。

暑熱環境に慣れていない時に、屋外で作業やスポーツを行い、水分補給のつもりで、ビールなどを飲むのは逆効果です。発汗や飲酒などにより、脱水状態になると血液の粘稠度が上がり、脳梗塞・心筋梗塞などを起こしやすくなります。炎天下でゴルフのプレー中に亡くなった例もあります。

河原栄養科長の一言：予防には「梅干し」「汁物」がおすすめ。



食中毒 飲食物を媒介として発症するものをいい、70%以上は細菌に起因している。原因として 1990 年代後半まではサルモネラや腸炎ビブリオが多かったが、2000 年以降はカンピロバクターとノロウイルスが増加してきました。ノロウイルスは食品を介して感染する場合と接触感染する場合があります、後者は食中毒とは呼ばないが、実際にははっきり区別できないことも多い。

予防の原則は「付けない」「増やさない」「殺す」です。調理器具の十分な洗浄とともに手の洗浄も重要です。冷蔵庫の機能を熟知して利用することは原因菌の増殖を抑えるのに効果的です。滅菌目的でアルコール飲料を使用することは無駄です。原因の細菌やウイルスは加熱して殺すのが最も良い方法です。焼肉の宴会で生焼けの肉を食べ食中毒を起こした例もあります。

自分自身の健康管理を十分に行い、楽しく過ごして、思い出の夏にしましょう。

（病院長 植木壽一）





コマーシャルすること

私はこう見えて家事が好きで得意である。特に料理には力を入れている。おいしい食事は人を、家族を幸せにすると思うからである(というよりも、自分が美味しいつまみで呑みたいだけなのだが)。その料理力がアップしたのは、優秀な包丁に出会ったときからだと思ふ。大好きな料理家はその包丁を愛用していることを知り、またちょうどそのころその包丁の広告に出会い、またそのちょうどそのころまさにその包丁がたまたま偶然行ったお店で出会い、もう買うしかないでしょう、とのことで購入した。その包丁の質感、フォルム、まさに私の好み！さらにその切れ味といたら！！めちゃくちゃ料理上手になった気分。その包丁のみでなんでも切ります。切れます。この出会いがなかったら今の私はないぐらい(言い過ぎ)その包丁の名前は“GLOBAL”。こんな風にある商品や人の事を知り、出会うことで、生活の質が豊になったり、技術が向上することがあると思ふ。それを病院にたとえたらどうだろう。この病院に出会わなければ今の自分や家族はない！と思ふことはないだろうか。スタッフとの関りや支援によって、いまよりさらによい生活、精神の安定が図れることがあるはずだ。家族の中だけで考えていたり、見よう見まねの介護で疲れ果てていたり、今いるところが全てだとおもって、色々我慢している人がいるかもしれない。私たちはそれを“最高のやさしさ”で支援できるのではないだろうか、いやしなければならぬ。私は尾崎病院のスタッフにはその力があると思っている。だからこそ、コマーシャルしなければならぬ。尾崎病院を知ってもらわなければならぬ。そして、自信をもってコマーシャルし、がっかりさせないようにするためにも私たちは学ばなければならぬし、謙虚でなければならぬ。私たちは係わるすべての人の生活の質を上げ、心豊かに人生を送れるようにすることが使命なのだから。



学会 発表

体位変換の中止により改善した 仙骨部の褥瘡

医療法人社団 尾崎病院 1) 内科 2) 褥瘡対策チーム

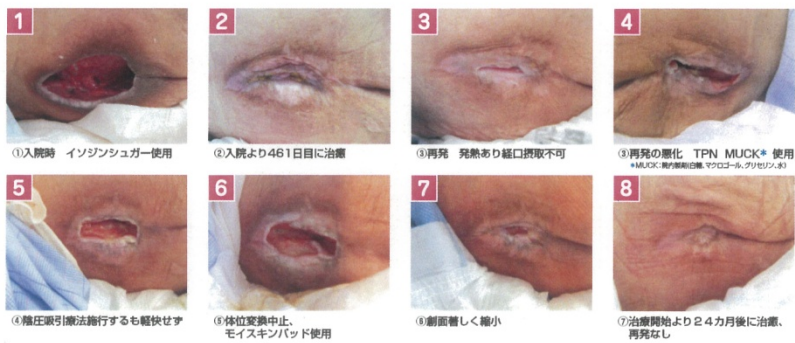
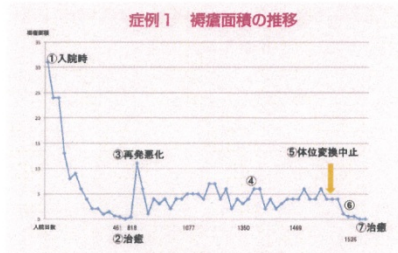
尾崎舞 1) 河原千明 2) 鶴巻由香 2) 原田大樹 2) 松森崇志 2)
井坂徹 2) 安住慎太郎 2) 福山洋 2) 岸田敏子 2) 藤和子 2)

【はじめに】

褥瘡予防、治療のためには2～3時間ごとの体位変換が基本だが、体位変換により褥瘡内にずれが生じ、褥瘡内褥瘡が起こっている可能性がある。高機能のエアーマットレスを使用し、体位変換を中止し、2～3時間ごとのマルチグローブによる除圧を行い治療が遅延していた仙骨部の褥瘡が治癒した症例を経験したので報告する。

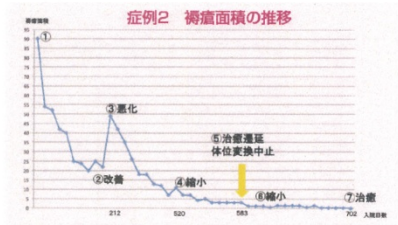
症例 1

80代女性、両転子部、仙骨部の褥瘡治療のため入院。
栄養状態、リハビリ、ポジショニングにより入院より461日目に褥瘡は治癒していたが、経口摂取不可、発熱により入院より818日目に仙骨部に褥瘡が再発。再び治療を開始するも5カ月より創面の変化が見られなかった。治療方法、ポジショニングをさまざまに変えてみるが、軽快せず。
治療開始より22カ月目で、体位変換によるずれが原因と判断。体位変換を中止し、マルチグローブによる除圧のみとした。



症例 2

80代女性、仙骨部の褥瘡のため入院。保存的治療で順調に軽快したが、入院より16カ月より創面に変化がなくなる。体位変換によるずれが原因と判断し、体位変換を中止し、マルチグローブによる除圧のみとした。



結果

褥瘡内をしっかりと観察し、体位変換によるずれが原因と判断し、体位変換を中止し、除圧は定時に行うことで褥瘡の治療速度が速まった。症例1に関しては判断にいたるまでが長く、治療をひどく遅らせてしまった。
2症例とも再発は見られていない。

考察

一定時間ごとの体位変換をしていれば褥瘡が治ると過信せず、褥瘡の創面をしっかりと観察し、行っている体位変換が有効なのか、有効でなければ中止し、除圧のみを行う治療も有効である。利益相反なし

いずみ会 歓迎会

新職員大歓迎！



よろしく
お願いします。

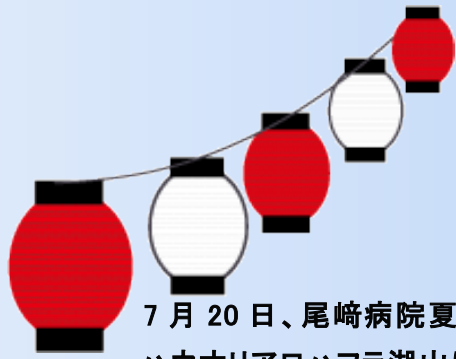


あの豪華ゲストも
参加！？



尾崎病院に新しい風を！





夏祭り



7月20日、尾崎病院夏祭りが開催されました。今年で3回目のお祭りでは、鳥大生やハウオリアロハフラ湖山によるダンスや病院職員による書道パフォーマンスなど様々な出し物が披露され、来場した大勢のお客さんを楽しませていました。



舞理事長挨拶



フラダンスの披露



いらっしゃ〜い!(^)!



職員による書道パフォーマンス
「最高に優しい病院」



ちびっこ集まれ〜!(^)



鳴子踊り



新人職員傘踊り



Gallery

ロビーに飾られた展示物をご紹介します

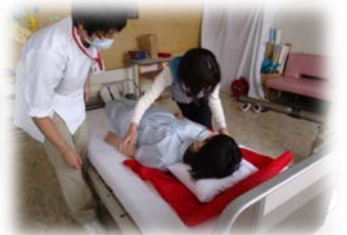
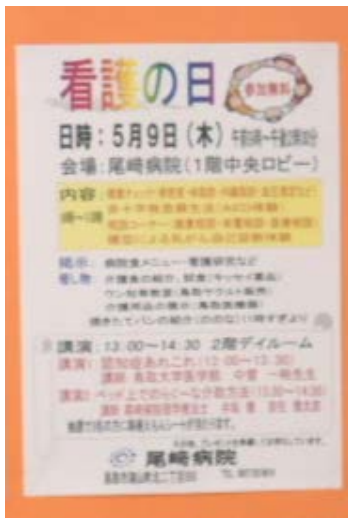


6月 町並みと紫陽花

7月 尾崎病院 夏祭り!!!



看護の日



今年も5月9日に「看護の日」のイベントを開催しました。中央ロビーでは、健康相談の他いろいろな展示やAEDの体験コーナーなどがありました。また、2階では脳神経内科の先生による認知症についての勉強会やリハビリによる実演が行われました。50人程の方に来院頂き、イベントはにぎわっていました。

編集担当者

廳 和子 (看護部長)、山崎 美佳 (介護病棟)、田中 将士 (リハビリ科)、西垣 修兵 (リハビリ科)、山崎 文絵 (リハビリ科)、川本 直文 (地域連携)、前橋 玲子 (事務部)、曾我 真太郎 (事務部) 諸家 香代子 (編集ボランティア)